



# 君津商工会議所 FAX通信

会員の皆様へ…会頭からのメッセージ  
平成27年9月10日(木)

Vol. 311

## 私説「祭りと花火」

秋元 秀夫

先日ある席上で「祭りと花火」が話題になった折、かなりの知識人と思われた方から「花火や祭りはなぜやるのですか？何かメリットがあるのですか？」と聞かれて、全く意表を突かれた思いでありましたが、花火の始まりや祭りの起源を聞かれるならば、多少の説明も出来ますがあまりにも単純、素直な問いかけに少し戸惑いましたが私は次のように答えました。

「昨年あたりから花火の打ち上げが地方によっては交通、地域の安全性、資金調達等の面から中止したところがいくつかありました。祭りは元来、日本は農耕民族であり、三代遡ればほとんど農家出身であります。農耕民族は春夏秋冬の作物の季節を大切にすると共に特に夏から秋にかけて作物の収穫期には恵みを与えてくれた八百萬神に感謝して祭りを行って参りました。西欧のキリスト教、アラブのイスラム教は一神教であります、日本の神は人が生きるために恩恵を与えてくれた太陽、月、星、風、水、火、土、山川草木、動物、海等の大自然であり、この国を切り拓き、子孫を育て、残してくれた祖先を神と尊び崇めてその数は八百萬神と言われております(日本書紀には八十萬神)

初詣で始まり春夏秋冬の大祭が行われますが、収穫期と盆休みに帰省する夏から秋には祭りは多く行われております。祭りには集まりか

える神々が村々や家がわかりやすい様に、山より高く花火を掲げ、天に感謝すると共に家々の棟より高い幟を村々の入り口に立て、神々を迎え入れ、神魂を移した神輿を笛や太鼓のお囃子にのせて神魂をゆさぶって統御し、鎮守の森や家々には酒肴をしつらえて神々と共に直会をして神々と人が一緒になって感謝の時を過ごすのが日本民族の祭りであります。ですから神道には教義はありません。教義が無いから神官は「事上げせず」と説教もしないのです。神祭を行う仲介者であります。分かりやすく言えば、日本の神の祭りは願い事をするのではなく感謝する祭りなのであります。

日本民族の偉さは、大自然は恩恵も与えてくれるけど時には大災害を与える大自然の神を恐れ敬うと共に、これらの経験を知恵として生かし、群れを作り互いに分かち合い、助け合って生きる群れの絆と思いやりを最も大切なものとして生きて来たことであります。日本建国以来2765年一度も国体は変える事はありませんでした。民族の崇祖天皇家は125代連綿として続いております。デンマーク国王54代、1500年英国王室40代950年、スペイン王家17代520年、タイ9代230年等凡そ20家ありますが世界に類のない民族であります。祭りも花火も民族、村人達の大自然、祖先に対する篤い感謝、尊敬の表れであり村人達の絆の強さ、心意気、仲間意識の象徴であります。東北の祭りに見られる様に祭りには全国から何十万人と言う人が祭りに帰ってきます。これからの時代は自分の心を支える故郷の祭り、旧交を暖める仲間達によって勇氣、自信、希望を取り戻すことが出来るからであります。祭りや花火のメリットは参加する事によって多くの隣人、友人と出逢い、感動する事であります。

あしたからの生き方が変える日でありませぬ…」